

大麻中学校だより

雄渾

□校訓 「雄渾」

□教育目標

「21世紀を豊かな心でたくましく、
正しく生きる人間の育成を目指す教育の推進」

1. 広い視野に立ち、目的をもって学習する生徒の育成
2. 自然や人間を思いやり、心豊かに生きる生徒の育成
3. 物事を正しく判断し、責任感の強い生徒の育成
4. 身体を鍛え、進んで勤労にいきそむ生徒の育成



令和8年8月27日発行No.6

江別市立大麻中学校

江別市大麻宮町1番地

電話：011-386-5341

FAX：011-386-5342

<http://www.ebetsu-city.ed.jp/oasa-t>

R8重点教育目標「夢や可能性に向かってたくましく生きる生徒の育成」

～目標の明確化・課題の発見・解決に向かう力の涵養～

特色ある教育活動：「総合的な学習の時間」の取組について

教務主任 松平 知

本校の「総合的な学習の時間」では、中学校3年間の学びを通し、重点教育目標にあるような力（育成をめざす資質・能力）を明確にしたうえで、系統的な学習計画を編成しています。特に現在、本校が力を入れているのが「SDGsを軸とした探究的な学習」です。生徒たちは、外部講師による講演会、施設見学、校外での自主研修などを通して自ら体験・学習したことから、個人や班ごとに探究したい課題を設定します。そして、その課題解決に向けて自ら実験を行ったり、アンケート調査を実施して傾向を分析したりしながら、主体的に解決策を見いだして行動することを目標に取り組んでいます。

各学年における3年間の学びの歩みは、次の通りです。

- ・1年生【探究学習の基礎】：個人探究を中心に、課題の設定、情報の集め方、まとめ方・発表の仕方といった「探究学習の基本的な進め方」をじっくりと学びます。
- ・2年生【協働的な探究】：1年生で培った基礎をいかし、SDGsをはじめとするより広いテーマのもとでグループ探究を行います。仲間と協働しながら課題を設定し、探究を深めていきます。
- ・3年生【防災・震災探究】：修学旅行（東北方面）での実地学習と連動し、震災学習を通して防災に対する意識を高めるとともに、災害や地域社会のあり方について深く探究します。

近年、大学や外部機関との連携による学びの機会が広がっています。今年度は、北海道大学と連携し、1年生の校外学習をサポートしていただきました。夏休み前には、大学院生が来校し、生徒一人ひとりが設定した課題をより「自分事」として深められるよう、専門的なアドバイスをいただきました。また、酪農学園大学のご協力により「食」をテーマとした講演会を実施するなど、専門的な知見に触れる機会を積極的に取り入れています。こうした地域や大学とのつながりを大切にし、探究学習を通して生徒たちに「学ぶことの楽しさや喜び」を実感してほしいと考えております。

現在、報道等を見ると、次期学習指導要領においても、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自らの人生を切り拓く持続可能な社会の創り手」を育成することが求められています。大麻中学校では、保護者や地域の皆様に、ご理解とご支援をいただきながら、生徒一人ひとりの毎日の学校生活が笑顔にあふれ、実り多きものとなるよう、今後も特色ある魅力的な教育活動を推進してまいります。引き続き、変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【教育実習が始まっています！】



今週から、卒業生2名（浅野先生：保健体育・福田先生：英語）が本校で教育実習を行っています。懐かしい校舎で立場を変えての生活です。最初は、とても緊張して職員室であいさつをしていました。それも、本人たちのやる気の表れと捉えています。実習生2名にとっても、生徒にとっても、教育界にとっても有意義な実習になるように教職員一同サポートしたいと思います。

【部活動地域展開に係るワークショップ開催】

夏休み前に実施しました「江別市部活動地域展開に係るアンケート」にご協力を賜り、誠にありがとうございました。アンケート結果等をもとに、江別市教育委員会は、ワークショップを7月29日（水）に開催しました。江別市内中学校の部活動の現状を整理し、望ましい地域展開について課題などを協議しました。江別市では、中学校部活動の地域展開に係る基本方針を令和8年2月に策定し、取組を進めております。

【生徒アンケート（前期）結果から】

本校では、今年度から年3回生徒アンケートを実施しております。全国学力学習状況調査の生徒質問紙や石狩教育局が作成している ISHIKARI ネットのアンケート項目を参考に、重点教育目標や研究主題、学校におけるウェルビーイングに関する項目を設定し、評価・分析・改善を行っております。7月に実施した結果について結果の概要をまとめましたのでご覧ください。



【成果】

- 協調性と人間関係の構築：協働学習や対話への姿勢が極めて高く、「わからない時に友達と相談して解決しようとする」、「友達と話し合うことで考えが深まる」、「互いの考えを大切に協力する」など、対話的で温かい学習環境が整っています。
- 授業内での ICT 機器の有効活用：「調べ学習での検索」、「視覚教材による理解」、「自分のペースでの学習や振り返り」など、授業における ICT の利活用が定着しています。
- 道徳・人権意識の向上：「いじめはどんな理由があってもいけない」、「人の役に立ちたい」、「道徳での意見共有」など、高い規範意識と社会性が育まれています。

【課題】

- より主体的な学び、見通しと表現力の育成：「学習の見通しを立てる」や「自らの考えがうまく伝わるような工夫」に課題が見られます。
- 家庭学習での ICT 活用と読書習慣：家庭学習での端末活用割合や、日常的な読書習慣に改善の余地があります。
- 生活リズムと悩みの相談環境：「就寝時刻の固定」や「学校の大人への相談しやすさ」において約 25% の生徒が不安を感じています。

【今後の改善の方策】

1. 授業の工夫：今後は全教科において、生徒が自ら達成を目指す魅力的な Goal（到達点・課題）を設定できる導入の工夫を行います。さらに、解決に向けた学習方法や使用するヒント・手立てを生徒自身が選ぶ「自己決定」の場を意識的に位置付けます。また、明確な Goal のもと自ら見通しを立て、主体的に問いを追究する学習プロセスを全校で確立していきます。
2. 家庭との連携：タブレットを用いた持ち帰り学習の推進と、基本的な生活習慣・読書活動への声かけをお願いしてまいります。「キャリアパスポート」や「学びのプラン」についても、家庭との連携を深める取組を推進します。
3. 安心できる環境づくり：生徒一人ひとりの声に耳を傾け、困りごとを抱え込ませないため、担任以外の教職員やスクールカウンセラー等も活用し、いつでも・誰にでも、安心して相談できる体制をつくりまします。また、Web-QU などのアセスメントツールのさらなる活用（分析・交流）や相談窓口の周知徹底を図ります。

【ウェルビーイングの観点から見える成果】

1. 心理的安全性と多様性を認める学級風土の確立

・学級での異論尊重 (23)：肯定率の全校平均が 87.9% と、全国平均 (67.5%) を +20.4% も大幅に上回っています。特に 1・2 年生では 90%以上 を維持しており、異なる意見を受け入れる心理的安全性の高い学級づくりがなされています。

・教師との信頼関係 (8)：「先生がよいところを認めてくれている」は全校平均 95.5% (全国比 +4.6%) と非常に高水準です。

2. 高い利他的な心と規範意識

・いじめの否定 (11) (全校 97.7%)、他者貢献意欲 (13) (全校 96.8%)、困っている人の支援 (10) (全校 92.7%) はいずれも 9 割を超え、豊かな道徳観と他人を思いやる姿勢が根付いています。

3. 主体的な未来志向・社会参画意欲

・地域・社会貢献 (31)：全校平均 80.6% (全国比 +8.3%) であり、特に 1 年生 (87.2%) や 3 年生 (83.0%) で強い参画意欲が見られます。

・将来の夢・目標 (9)：全校平均 73.7% (全国比 +6.1%) と、将来に対する前向きな意識が保持されています。

《お知らせ》

◆月別行事予定は、tetoru 配信または大麻中学校 HP をご確認ください。

◆【大麻中学校資源回収について】 大麻地区＝毎月末 文京台地区＝毎月第 4 木曜日
回収については、[直接〈回収業者「\(有\) 江別資源」384-1357〉](#)へお問い合わせください。

